

3月定例会 委員会の 審査状況

3月定例会では、提案された議案のうち、32議案が各常任委員会に付託され、3月15、16、22日に審議されています。その概要についてお知らせします。

総務委員会

(議決結果)

総合教育センター条例の制定は全会一致で否決、その他の9議案は全会一致で可決。

(主な審議の状況)

総合教育センター条例の制定

県の旧保健所の廃止に伴い、市が購入した施設の改造を行い、教育の拠点として総合教育センターを設立するに当たり、条例を制定しようとするもの。

教育研修所と青少年センターの統合による人事配置については現状と同じ9名を予定しているが、新たに研究職を1名配置するとのこと。

貸館業務における勤務時間以

降の施設管理職員や賃金、システムについては、費用と効果を考えながら行っていくが、具体的なことまで決めていないとのこと。勤務時間以降の施設の貸館事業は、多くの市民に幅広く利用してもらうための施策との説明でしたが、委員からは、住宅地の中にある施設にも関わらず、夜10時まで貸館事業を実施することによる照明や騒音等の周辺住民への悪影響に対する配慮について質問されています。

討論では、教師の研修の施設にすることは異論はないが、貸館業務については、運用が固まっていな段階でリスクを負うべきではないとの反対意見等が述べられ、採決を行ったところ、0対5の全会一致で否決と決定しています。



総合教育センター

平成22年度一般会計補正予算 (第5号)

歳入の路線バス対策補助金34

8万円の減額については、法華山一乗寺を経由して姫路と社を結ぶバス路線の運行について、年度途中で県の補助金交付基準に合わなくなり、補助金が打ち切られたことによるもの。委員からは、法華山一乗寺は多くの参拝客が訪れ、本堂の大規模改修が終わって間もないことから、運行が廃止にならないよう、利用者増を図っていたきたいと要望されています。

歳出の総合計画策定事業について、委員からは、3月議会に提案されなかった理由について質問がなされ、当局からは、5月22日に市長選挙を控えていることから、政策的な内容については、市長選挙の後、当選された市長によって政策を表明するという意味で、23年度の一般会計当初予算は骨格予算として提案されており、同様に、市の将来の方向性を定めていく総合計画も、当選された市長によって作成されるべきとのこと。これに対して委員からは、選挙を理由に後回しにすることは納得できない、現市長も、当選時には、すでに基本構想が策定されていたが、それに拘束されることなく、自分の政策を打ち出されてきたとする意見が述べられています。当局からは、前回の総合計画は好景気な時代につくったもので

大規模な計画が盛り込まれ、実行率が49%にとどまったため、次の総合計画においては、実施率が上がるように選挙後の市長に策定してもらいたいと考えたとのことです。

平成23年度一般会計予算

図書館の運営について、図書館運営の効率化を目的に、部署を統合し自治企画課の所管となったことで、どのような効率化が図られたのかとの質問に対し、当局からは、お互いに連携協力をして業務を遂行しており、市民の交流拠点として生まれ変わるための準備段階であるとのこと。委員からは、図書館運営協議会が開催されていない理由について質問があり、22年度は休止状態になっているが、市民力により方針を出していきたいので、23年度は開催をしたいとのこと、図書館運営に十分な知識と興味を持った人の人選をしているとのこと。別の委員からは、今後の図書館運営の特色と経営方針について確認すると、当局からは、貸本だけではなく、地域の新たなまちづくりに寄与できるような施設に発展をさせ、市民の交流の拠点として機能させて、行政と市民が連携をして使いやすく市民に愛される図書

館にしたいとのこと。

災害対策としてのハザードマップの作成について、委員から市民に対しての周知方法や市としての基本的な考え方について確認すると、市長からは、市民の安全対策について種々の施策を講じていくことが行政の務めであり、防災計画の策定だけでなく、市民に浸透させることも市の責務と考えており、PRに努めたいとのこと。

小学校の修繕費について、委員から、宇仁小学校のタイムスケジュールについて確認すると、当局からは、3月8日に評価委員会が開催され、評価が出れば、総合的に判断をして耐震補強または改築の判断が出るため、方針が決まらない以上、予算を計上できないというもの。評価結果は、3月中には出る予定とのこと。

任期付職員の人件費については、年収ベースで600万円程度とのことで、23年度に任期付職員として予定している弁護士と会計士の採用に関して、この金額で来てもらえるのか確認すると、当局からは、両名とも自治体職員として勤められた経験のある人で、国民的なニーズとして感じ取られ、是非この方面で活躍したいという気持ち強いことから採用になったと考えているとのこと。